

## ショートステイ（おくらの里）

利用者1人1人の意思及び人格を尊重し、心身機能の維持並びに家族の心身の負担を軽減し、住み慣れた自宅での生活が可能な限り継続できるように取り組みます。また、利用者がショートステイ利用中に職員や他利用者・入所者と相互に社会的関係を築き、自律的な生活が送れる様に支援します。

### 1．在宅生活の継続支援

- (1) 在宅環境や利用の背景を考慮し、本人・家族の意向やニーズをくみ取り、可能な限り対応できるように努力します。また、家族の抱える不安や悩みに寄り添い、気軽に相談できる施設として、必要かつ適切な助言や支援を行い、利用者本人・家族の心身の負担を軽減することで、安心して在宅生活が継続できるよう支援します。
- (2) 利用後も在宅生活が継続できる様、担当居宅介護支援専門員の作成した居宅サービス計画に基づいた利用中のサービス計画を立案することで、自律が促進できるケアに取り組みます。
- (3) 利用者本人・家族や担当介護支援専門員からの情報を元に利用者の生活歴・心身状態や既往歴などを的確に把握し、利用中における健康状態の把握に努めます。
- (4) 利用者個々の心身状態に応じた安心・安全な支援サービスが提供できる様取り組みます。また、利用者の疾病等による急変や、緊急事態（重大事故など）が生じた場合は、敏速かつ必要な対応を講じると共に、家族・担当介護支援専門員に速やかに連絡し状況・状態説明を行います。

### 2．ケアの充実と質の向上

- (1) サービス担当者会議や日頃からの連絡などを通じ、家族や担当介護支援専門員より随時、情報収集し、その都度、個々に合ったケアを提供し、ケアの質の向上に繋がります。
- (2) 利用者本人の心身状況を勘案し、それに合った活動の場を設けることで、利用中の楽しみや役割などを持って過ごして頂き、利用者本人の心身機能維持に努めます。また、ユニットという家庭的な環境で他利用者・入所者と交流を持ちながら馴染みの関係作りが行えるよう、過ごし易い環境作りを行います。
- (3) 利用者が一人の人間として尊厳を持って生活できる様に身体拘束ゼロ、高齢者虐待防止、QOLの向上を推進し、職員個々が正しい知識や認識を持ち、常にケアの振り返りや改善を心掛けることで、利用者の尊厳を守り、自尊心を傷つけず信頼関係が築けるよう取り組みます。
- (4) 利用者本人・家族からの要望や苦情を真摯に受け止め、直ちに事実関係の確認や調査を実施し、迅速かつ誠実に対応すると共に、多職種と連携し、再発予防策を講じます。また、情報を開示し、透明性の確保と今後のサービス改善に繋がります。

### 3．利用者の確保と居宅支援事業所との連携

- (1) 既存利用者や新規利用者から利用の継続を希望して頂けるように、利用者本人・家族の意向や要望に合ったサービスを提供します。また、日頃から各居宅介護支援専門員からの連絡や相談に応じ、利用者の確保に努めます。
- (2) 空床状況の把握に努め、現場の受入体制を見極めながら、各居宅介護支援専門員と連絡を図り、稼働率を意識した円滑なベッドコントロールが行える様に努めます。
- (3) 行政・家族・担当介護支援専門員からの緊急な利用依頼時（虐待・災害等）には、各関係機関・部署との綿密な情報交換を行い、迅速かつ柔軟な受け入れ体制が確保できる様に努めます。
- (4) 日頃から感染症予防対策を講じ、利用者受入れ前の健康確認・利用中の健康管理を行います。また、施設内で感染症が発生した際には、直ちに家族や各居宅介護支援専門員に連絡・報告し、今後の利用について相談・対応します。